

- 1 わざとではないけれど、ぼくのけった石が、花だんの芽を折ってしまった。だれも見していない。でも、その場所を通るたびに、むねがちくりとする。

★ 気持ちが 分かる ことばや ようすに 線を 引こう。

このとき、ぼくの 気持ちに いちばん 近いものは どれ？

- ① 悪いことをした、という 罪の意識
- ② 花なんて どうでも いい
- ③ うれしくて 仕方がない
- ④ たいくつだ

こたえ

- 2 同じ日に習い始めたのに、友だちはもう次の級に進んだ。わたしは、まだ同じ級のままだ。友だちの合格を、うまく「おめでとう」と言えなかった。

★ 気持ちが 分かる ことばや ようすに 線を 引こう。

このとき、わたしの 気持ちに いちばん 近いものは どれ？

- ① 自分がおとって見える 劣等感
- ② 友だちが にくらしい
- ③ 合格なんて どうでも いい
- ④ うれしくて たまらない

こたえ

- 3 「べつに、悲しくなんかない」。転校のあいさつで、みきはわらって、そう言った。でも、教室を出て角を曲がったとたん、足が止まり、うつむいた。

★ 気持ちが 分かる ことばや ようすに 線を 引こう。

みきの 気持ちは、みんなの前と、一人になった後で どう 変わりましたか。

- ① 強がり → こらえていた 悲しさ
- ② いかり → 安心
- ③ たいくつ → よろこび
- ④ こわい → うれしい

こたえ

1 こたえ：① 悪いことをした、という 罪の意識

手がかり：だれも見えていなくても、その場所を通るたび胸がちくり＝自分が悪いという罪の意識・罪悪感。

2 こたえ：① 自分がおとって見える 劣等感

手がかり：友だちは先へ、自分は同じ級／素直に祝えない＝にくしみではなく、自分がおとって見える劣等感。

3 こたえ：① 強がり → こらえていた 悲しさ

手がかり：みんなの前では笑って強がる→一人になると足が止まりうつむく＝こらえていた本当の悲しさが出る。